

共通の文化的基盤から 持続可能な低炭素社会の実現に向けて

2021-2022 日中ハイレベル研究者交流会（低炭素人間居住環境）提言書

地球規模の気候変動とそれがもたらす環境問題は、今日の人類にとって今後の生存にかかわる深刻な問題である。地球の未来は、我々が今行う選択に大きく依存している。近年、世界中で頻繁に発生している気象災害は、我々が今直面している厳しい試練であるといえる。また我々は、次世代の人々のために地球温暖化を抑制することを考えざるを得ない状況にあるといえる。各国は、温室効果ガスの排出を管理するための行動を早急にとる必要があり、効果的な国際協力を通じて、今世紀半ばまでにネットゼロの排出を実現することを目指して努力する必要がある。日本政府と中国政府は 2020 年にカーボンニュートラル開発目標を確立し、日本政府は 2030 年度の温室効果ガス削減目標について 2013 年度比 46%削減を、また 2050 年までにカーボンニュートラルを実現することを目指す宣言を行い、「地球温暖化対策推進法」の改正を行った。中国政府は 2030 年までにカーボンピークを達成し、2060 年までにカーボンニュートラルを実現することを宣言した。この目標を達成するためには、国民経済などすべての分野において、低炭素社会への実質的な移行を実現する必要がある。人間の居住環境の創造を担う建築は、国民経済の基幹産業であり、社会全体の総炭素排出量の 40%を占めている。建築分野の低炭素への移行は、人間社会がカーボンニュートラルの目標を達成することに大きく寄与し、地球規模の気候変動を抑制する上で重要な役割を果たすといえる。

アジア文明の黎明期から、中国と日本の居住文化は常に人と自然の調和のとれた共存を強調してきた。中国の伝統的な建築原理は、「道法自然、天人合一」を尊崇し、天と地の間地脈の原理を捉えて、季節の移り変わりの中で生活することにある。日本の伝統文化は、素朴と節制を心がける生活の理念を提唱し、「わびさび」という独特の美を生み出した。中国と日本は、それぞれの資源の恵みと環境条件において、東アジアの特徴を備えた持続可能な人間居住

の伝統と建築の知恵を発展させ、共有してきた。

今回のハイレベル研究者交流会では、「低炭素人間居住環境のための東アジアの知恵と開発の進むべき道」をテーマに、日本と中国から著名な研究者や業界をリードする実務者を招き、東アジアの文化的基盤における低炭素建築をめぐって将来を見据えた議論を行い、最先端技術やイノベーションの分野で両国の交流と協力を強化し、カーボンニュートラルな都市と建築の発展に向けたアジアの進むべき道を探ることを目的とした。出席した専門家の合意に基づき、以下のような共通の取り組みを提案する。

両国の建築学分野の研究者と実務者は、「国連気候変動枠組条約」による合意と両国政府が定めたカーボンニュートラルに向けた開発目標の実現に向けて以下の3つの活動に積極的に取り組む。

I. エネルギー、環境、材料、情報、エコロジーなどの各分野における最先端の技術と建築学を融合発展させ、建築における省エネルギー、省資源・循環、長寿命など低炭素な人間居住環境に関する基礎理論の研究と重要な応用技術の開発を強化し、研究と技術革新を含め建築分野の低炭素化への移行とその発展を主導し、支援すること。

II. デザインは環境を創造し、未来を創造する。デザインの価値を十分に理解し、発揮させ、研究と技術革新の成果を効率的に都市と農村の建設と再生の実践に応用し、低炭素居住環境の構築と発展をハイレベルの計画と設計によって先導すること。

III. 中国と日本などの国々が生み出した東アジアの文明と自然との共生の建築原理に関する伝統は、世界の人間居住環境を構築するための貴重な財産である。京都議定書やパリ協定など人類が合意した気候変動に関するアジェンダを実現するため、地域の文化的伝統や地域の独自の知恵を継承し、アジアの知恵を含めた日中共通の文化的基盤から、多様な国々の多様な人間居住環境の持続可能な発展に向けて進むべき道の選択肢を提供すること。

2022年3月25日、南京・京都